

国際学会報告

2011年11月29日より12月3日まで、京都で行われた世界泌尿器内視鏡学会（29th World Congress of Endourology）に参加し、当院からの演題発表に加えて、手術手技講習会の講師の一人として活動してきました。この学会は前回の第28回にアメリカのシカゴで行われましたが、今回も前回同様、地理的な問題及び震災の風評被害にも関わらず海外から多くの参加者を集め、盛況で活発な国際学会でありました。

私の担当した手術は前立腺肥大症に対する経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（Holmium Laser Enucleation of the Prostate: HoLEP）という比較的新しい手技です。現在日本では約170施設が取り組んでおり、海外においてはイギリス、アメリカ、ニュージーランド、ドイツ、スペイン、中国、韓国などに数施設あるものの、手技習得に時間がかかることからまだまだ広まっておりません。それでも従来の前立腺肥大症に対するTUR-Pや開腹術と比較して安全性、効果を考慮すると圧倒的に患者さんのQOL（生活の質）向上に優れているため、普及すべき手技であるといえます。

実際の12月1日に行われた手術手技講習会は、世界中からの多数の応募に対して15人を抽選で厳選して行いましたが、開始前及び休憩時間などに海外からの参加者が会場になだれ込んでくるほどの盛況ぶりであり、世界中の泌尿器科医がHoLEPに並々ならぬ関心を抱いているという現実を改めて痛感いたしました。

当院ではHoLEPをこの2年ほどで多くの方々に提供してまいりましたが、今後はこのような手術手技講習会を利用するなどして、さらに多くの施設、日本中、世界中に広く普及させるべく努力して参りたいと考えております。また当院で手術を希望される方々にも引き続き、より良い治療の提供に努めていく所存です。



中国からの参加者と



講師の先生方：左から聖路加国際病院（遠藤先生）、淵野辺総合病院（設楽先生）、ニュージーランドの Dr Gilling、大森、杏林大学病院（宍戸先生）、東海大学病院（花井先生）



講習会をサポートしてくださった Boston scientific 社の方々と

泌尿器科医長 大森洋平